

TEAM TARO



SANMEI Team TARO PLUSONE TARO SEKIGUCHI RACE REPORT

JSB1000
11



2022 MFJ 全日本ロードレース選手権シリーズ 第7戦 SUPERBIKE RACE in OKAYAMA

岡山県・岡山国際サーキット (1周=3.747km)
クラス: JSB1000 マシン: BMW M1000RR タイヤ: BRIDGESTONE
2022年9月17日(土) 天候: 晴れ コース: ドライ
予選: 11番手 (タイム: 1分33秒214)
2022年9月18日(日) 天候: 曇り・雨 コース: ドライ・ウエット
決勝: 8位

観客動員数: 5,050人 (2日間合計)



TARO 転倒を乗り越えて2戦連続の8位フィニッシュ



2022年シーズンの全日本ロードレース選手権も今回の岡山ラウンドを含め残り2戦となり終盤戦に入ってきている。今年より走らせているBMW M1000RRの理解度も進んできていたが、前戦オートポリスの流れで岡山国際サーキットを事前テストで走らせてみると、なかなかいいセットを見つけないに苦戦。ニュータイヤを履いてアタックしたり、ロングランをしたりしたことにより、マシンセットの方向性が分かっていたが、まだまだポンヤリとしたものだった。



レースウィーク初日は、気温も上がり、路面温度が50度近くと9月中旬とは思えない暑さとなった。事前テストの結果を受け、さらにセットを進めていくと、まずまずのフィーリング

となってきたが、目標とするポジションを得るためには、もう一つレベルを上げないといけないところだが、そこが難しい。理想は1分32秒台で周回できるようになることだった。



土曜日の公式予選は、ノックアウト方式で行われた。関口は、コースイン直後の集団の中でタイミングを見ながらペースを上げていく。そして、前がちょうど抜けたときにタイムアタックに入る。セクター1で自己ベストをマークするが、ヘアピンのブレーキングで痛恨の転倒。赤旗が提示されセッションは中断される。関口は、レッカーにマシンと共に乗ってピットに戻ると、スペアマシンに乗り換えて予選を継続。1分32秒台を狙っていたが、1分33秒214にとどまり11番手と、惜しくもQ2進出はならず予選を終えていた。



チームスタッフはマシンを修復してくれたが、動作確認を決勝日朝のウォームアップ走行でしかできないため、スペアマシンでレースを戦うことに決める。台風14号が接近しているため、各クラスの周回数減らし、お客さんや関係者が無事に帰れるように1時間前倒しのスケジュールが組まれた。



JSB1000クラスは、24周から4周減算し20周で争われた。シグナルがブラックアウトし、関口は、まずまずのスタートを切り、1台をかわし10番手につける。しかし、レース序盤はペースを思うように上げることができず、前に離されてしまう。そこからジリジリと追い上げていき、前のライダーに追いつくと10周目のダブルヘアピン2個目でインを突いて9番手に浮上。さらに前を走るライダーに接近していくが、かわすところまではいけない。最終ラップに前で転倒があり、一つポジションを上げ前戦のオートポリスラウンドに続き8位という結果でゴールすることになった。



■関口太郎コメント

「公式予選では、久しぶりに攻め過ぎて転倒しましたが、ケガもなく8位でチェッカーフラッグを受けることができたので、現状ではベストを尽くせたと思います。怪我の功名になったのは、スペアマシンを使ったことで分かったことがあったこと。また、ここから上を狙うためには、自分自身もマシンもレベルを上げないと勝負できないことも実感しました。最終戦鈴鹿は、鈴鹿8耐以来になりますし、どこまでいけるか分かりませんが、しっかりまとめて今シーズン最高のレースにしたいですね」



TARO

このリリースへのお問い合わせは、
下記メールアドレスまでお願いいたします。
E-mail : tarosekiguchi@gmail.com